

埼玉県議会議員



郷土の声を県政に



柿沼貴志

柿沼貴志のプロフィール

- 昭和50年11月11日生まれ
おももと幼稚園～桜ヶ丘小学校～長野中学校～羽生第一高校
- 小中と野球少年だったが、高校から空手道に励む
- 趣味:自転車、野球、ソフト、カラオケ
- 平成23年 行田市議に初当選(1759票)
- 平成27年 県議選に初挑戦(12,752票 次点)
- 平成31年 県議選に於いて15,253票の信託を頂き初当選 無所属県民会議(14名第二会派)にて活動中!
- 朝の清掃&挨拶活動は9年目に突入、1,000回を超え継続中!
- 県民の声を県政に届ける為各地でミニ集会を実施中!

希望の芽を出せ 柿の種

発行・連絡先

埼玉県議会議員 柿沼貴志 事務所
〒361-0077 行田市忍 2-17-12

TEL 048-554-1377 FAX 048-577-3154
e-mail : takashi-kakinuma@mbr.nifty.com

柿沼貴志

検索

令和2年 6月補正予算

107億4,118万1千円

令和2年 6月追加補正予算

1,484億4,435万9千円

補正後累計

2兆1,770億3,002万6千円

主な内容

感染拡大防止と第2波への備え

- ◆抗原検査の導入や民間検査機関におけるPCR検査体制の拡充
- ◆市町村が実施する新型コロナウイルス感染症対策事業への助成

医療提供体制の強化

- ◆重点医療機関に対する病床確保、設備整備への助成
- ◆医療機関、薬局等の院内感染防止対策への助成

医療、介護従事者等への支援

- ◆医療従事者、介護施設等への慰労金の支給

感染拡大防止対策等の推進

- ◆介護施設等における感染防止対策やサービス再開に向けた支援
- ◆幼稚園及び県立学校における感染防止対策

中小企業、事業者に対する支援

- ◆新型コロナウイルス感染症対応資金及び経営安定資金の融資枠の更なる拡大
- ◆中小企業、個人事業主等に対する家賃への支援
- ◆テレワークを導入する県内企業等への更なる支援

学びの機会の確保に向けた環境整備

- ◆県立学校における ICT 環境の早期整備による遠隔学習機能の強化
- ◆児童養護施設におけるオンライン学習の環境整備への助成
- ◆公立小中高等学校への学習指導員の追加配置

生活に困っている人々への支援

- ◆生活福祉資金の特例貸付に対する助成
- ◆ひとり親世帯臨時特別給付金の支給

柿の種
架け橋
プロジェクト

地域の安全を守る!

地域の要望をいただき、行田市中央の通学路に
歩行者専用信号機の設置が実現しました。



県の中小企業・個人事業主支援金、
国の持続化給付金に関するお問い合わせは
柿沼貴志事務所までご連絡ください。



1. 鉄道の利便性について

Q. 質問: 柿沼貴志

秩父鉄道を軸とした県北地域の活性化や、秩父鉄道と他社線との連携強化が必要である。県としてどのように捉えて進めていくのか? 県北地域は熊谷市で開催された「ラグビーワールドカップ」の成功や、新一万円札の新たな顔に決まった深谷市出身の「渋沢栄一翁の大河ドラマ」の放映、県内初の特別史跡、日本遺産の一部となった「さきたま古墳群」を有する我がまち行田市があり、令和4年には「(仮称)ふかや花園プレミアムアウトレット」のオープンも予定されるなど良い流れが来ている。波に乗る北部地域の更なる活性化に向けてより大きな人の流れを生み出すためにも県北地域の鉄道の利便性向上に力を入れるべき、埼玉県が抱える南北格差解消の為に、秩父鉄道と東武伊勢崎線が接続する羽生駅の乗り継ぎの工夫や秩父鉄道にPASMOなどのIC乗車券を導入すれば東京や北関東地域からももっと人を呼び込めると考えるが、どうか?



記事: 埼玉新聞

A. 答弁: 大野知事、企画財政部長

秩父鉄道は他の鉄道会社の多くの路線と接続している県内の鉄道ネットワークにおいて重要な鉄道路線である。また沿線の通学、通勤、地域の足となっているだけでなく、県内有数の観光スポットがあり、観光振興にも欠かせない路線である。これまで県ではWi-Fi設置など様々な支援を行っているが、指摘の通り更なる利便性向上が期待される。他社線との直通運転やIC乗車券導入など駅の乗り継ぎ改善を県としても働きかけ、引き続き取り組んでいく。ただし、車両の性能や安全装置が各社間で異なるなど課題もある。秩父鉄道は安全輸送設備の老朽化も進んでおり、安全性の確保を最優先とし県も財政支援を行っている。沿線市町村と十分に連携を図り、より大きな経済効果も生まれるように安全性を担保しながら他社線との相互キャンペーンにも取り組んでいく。

2. 学校教育における「チーム学校」の推進について

Q. 質問: 柿沼貴志

社会を取り巻く環境が大きく変化する中で、若者の引きこもり等が社会問題になっている。併せて、学校に課せられる課題も、複雑で多様化しており、課題の解消や対応にあたる教員の長時間勤務も深刻な問題となっている。教育現場には文科省が推奨する授業以外の課題を地域や、専門職と一緒に取組み解決に導く「チーム学校」の取組みが重要になってくる。現教育長が二部制の吹上秋桜高校の初代校長となって指揮を執ってから10年が経過しているが、残念ながら毎年50名前後の生徒が何らかの形で学校を去っている現状がある。不登校枠も設置し門戸を広げたからには誰一人取り残さないという決意で次のステージに送る責任がある。専門職の離職率も高い原因の一つに募集要項はほぼ同じなのに、教育相談員(常勤・月給制)とスクールソーシャルワーカー(週二日・日給制)、スクールカウンセラー(週一日・日給制)と勤務形態と給与格差がある。専門職を統一し、常勤化、進路未決定者が0になるまで手厚い支援として加配するべきだが誰一人取り残さない教育支援を教育長はどう進めるのか?



A. 答弁: 教育長

多岐にわたる障害のある生徒に対する教育においては教育的ニーズを把握し適切な指導支援が重要であり、小、中、高とさらに細やかな情報共有をして、障害の特性等に応じ組織的な支援が出来るように取り組む。専門職の統一や常勤化、給与体制の見直しについては生徒の相談に対しそれぞれ必要な資格も違うため、いずれも重要な職と考えており変える予定は無い。指摘の分かり難い募集要項については是正する。問題を抱える生徒の就職支援についても就労支援アドバイザーによる高校での研修を行うなど、指摘を踏まえて誰一人取り残さない取組みを行っていく。

3. 特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害に万全の対策を

Q. 質問: 柿沼貴志

桜だけでなく、スモモ・桃・梅などの果樹にも被害を及ぼし日本の風景が損なわれる前に早急な対応が必要。県も環境科学国際センターが県民参加の調査も行っているが、被害が広がりがつある。群馬や栃木の一部の市では成虫を捕獲すると一匹50円の奨励金を出し、6648匹の成虫を捕まえた実績や、被害を受けた庭木の伐採や運搬に助成を出している。我がまち行田市でも米娘舞娘という小中学生のユニットが「クビアカツヤカミキリを捕まえる」という歌を作って啓発活動を行っているが、「さきたま古墳群」や「水城公園」でも成虫が発見されており早期の防除対策が必要。県としても具体的な被害の周知や助成が必要である。また市町村と連携を強化し、広域で対策に取り組む撲滅を目指すべきだと思うがどうか?



記事: 埼玉新聞

A. 答弁: 環境部長

クビアカツヤカミキリの被害は、県内の12の市町206ヶ所738本の樹木に被害が確認されている。発見や被害の情報があった場合、現場へ急行し初動対応を行っている。県では防虫ネットや薬剤の提供、また技術的な助言を実施している。更に新たな試みとして「さきたま古墳公園」において行田市と合同で、まだ被害の出していない樹木で薬剤を注入することで予防が図られるか実証実験を行う。周知に関しては県政出前講座を開催する他、7万枚のチラシを作成しSNSの活用と併せて積極的な情報発信に努める。議員指摘の通り防除には地域一帯での取組みが必要で市町村近隣都県と連携しながら防除対策を進めていく。

4. さきたま古墳群を埼玉県の誇る観光拠点へ

Q. 質問: 柿沼貴志

埼玉県名発祥の地ともされている「さきたま古墳群」からは国宝に指定された金錯銘鉄剣が出土し、この鉄剣に刻まれた115文字の銘文が日本古代史の確実な基準点となり歴史事実の実年代を定めるうえで大いに役立っている。また、「さきたま古墳群」を含むストーリーが県内初の「日本遺産」にも認定され、最近では令和2年3月10日に、これも県内初となる「特別史跡」(有形文化財の「国宝」に値する)に指定された。しかし現状をみると二子山古墳周辺には以前ちょうどこの時期には1万株の花菖蒲が咲き誇り、訪れた人々の心を和ませてくれていたが、今はただヨシが伸び続けている状況でとてもおもてなしの体制が取れているとは言えない。埼玉県の誇る観光拠点として、このチャンスに日本全国そして全世界にアピールすべきと考えるがどうか? また公園の拡張整備が進んでいるが、観光客がくつろげる休憩所や食事処、お土産を購入できる施設が公園内に必要だと考えるがどうか?



A. 答弁: 産業労働部長、都市整備部長

さきたま古墳群は「特別史跡」に指定された「国宝」として知られている。また行田市には足袋蔵、古代蓮の里、忍城社をはじめ魅力あふれる歴史文化遺産が多数ある。こうした埼玉県の誇る観光拠点を国内外にアピールして観光客を誘致することは大変重要と考えている。県はNEXCO東日本と車で県内周遊を促すスタンプラリーを実施し海外に対してはホームページやSNSを活用し古墳の魅力伝える動画を作成している。地域の可能性をしっかりと見極め魅力をより多くの方に知っていただけるよう積極的に取り組んでいく。議員提案の飲食や物販が出来る施設については地元からも要望を受けている。施設の設置は来園者の利便性向上に繋がるものと認識している。一方地元の熱意をもって地域全体で機運を盛り上げ、継続的に経営を推進する体制が必要。引き続き行田市の関係者と十分協議し、さきたま古墳公園の整備を着実に進める。